

令和3年度障害者スポーツ推進プロジェクト

滋賀県：障害者スポーツ推進事業事業報告

滋賀県文化スポーツ部スポーツ課

1. 地域の状況及び課題

■ 県内の手帳所持者数（R2）：滋賀県人口約141万人

- ・ 身体障害者手帳 53,745人（約3.8%）
- ・ 療育手帳 14,771人（約1.0%）
- ・ 精神保健福祉手帳 10,566人（約0.7%）
- ・ 合計 79,082人（約5.6%）

■ 県全体の障害者スポーツの実施状況

障害者の週一回以上のスポーツ実施率 28.9%（R4目標：65%）

（令和2年度：障害のある方のスポーツに関する調査）

- ・ 特別支援学校等で授業や自主活動が行われている
- ・ 総合型地域スポーツクラブによる教室が開催されている（14クラブ）
- ・ 県大会、体験会が開催されている

■ 地域での障害者スポーツ実施状況

- ・ 福祉サービスの一つとして運動・スポーツが実践されている（余暇活動含む）
- ・ 競技クラブによる、運動・スポーツ教室が実践されている
（クラブのある地域に限られている）

1. 地域の状況及び課題

■ 課題

- 地域の運動・スポーツの資源との結びつきや関わりが希薄
- 福祉分野のみでの余暇活動（運動・スポーツ含む）の限界
- 学校卒業後の運動・スポーツの場の不足
- 身近な地域で、継続的に運動・スポーツに親しむことのできる環境の地域偏在

■ 事業実施の経緯

- 社会参加の選択肢の拡大および共生社会づくりを目的として、障害のある方が身近な地域で、継続的に運動・スポーツに親しむ環境づくりを推進。
- 平成27年より地域の運動・スポーツの拠点である、総合型地域スポーツクラブを障害者スポーツにおける地域の核として位置付け、実践を実施。

2. 事業実施の目的・基本的事項

■ 目的

- 身近な地域で、継続的に運動・スポーツに親しむことのできる環境の拡大および地域偏在の解消
- 既存の地域資源を活用した障害者スポーツの実践
- 障害者スポーツと生涯スポーツの連携強化
（福祉行政） （スポーツ行政）

2. 事業実施の目的・基本的事項

■ 事業実施体制

実行委員会：参画団体名	
1	公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
2	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会
3	NPO法人滋賀県精神障害者家族会連合会
4	滋賀県障害者スポーツ協会
5	滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会
6	滋賀県スポーツ推進委員協議会
7	滋賀県障害者自立支援協議会
8	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
9	総合型地域スポーツクラブ
10	立命館大学
11	滋賀県立障害者福祉センター
12	滋賀県立リハビリテーションセンター

障害者スポーツ実践クラブ		
1	きのもとeye's	長浜市
2	奥びわ湖スポーツクラブ	長浜市
3	NPO法人T S C	高島市
4	ぽぽんた倶楽部	甲賀市
5	NPO法人能登川総合スポーツクラブ	東近江市
6	NPO法人多賀やまびこクラブ	多賀町
7	アザックとよさと	豊郷町
8	湖南ちよいスポクラブ	湖南市
9	NPO法人こうかサスケくらぶ	甲賀市
10	NPO法人レインボークラブ	甲賀市
11	高月総合型スポーツクラブピース	長浜市
12	はーと貴生川スポーツクラブ	甲賀市
13	伴谷BANBANクラブ	甲賀市
14	余呉はごろもクラブ	長浜市

※9～14は県単独事業で実施

障害者スポーツ理解促進事業	
1	障害者スポーツ指導者協議会

3. 事業内容

■ 障害者スポーツ実践事業（7月～3月：おおむね月1回）

クラブの取組における参加者数（令和3年度実績）

年度	クラブ名	運営方法	回数	障害者参加人数（延べ）
H28 から	ぽぽんた倶楽部	福祉事業所やサロンとの連携によるスポーツ教室	7回	89人
	NPO法人TSC	地域の障害者向けスポーツ教室	6回	36人
	きのもとeye's	福祉事業所との連携によるスポーツ教室	8回	115人
	奥びわ湖スポーツクラブ	地域の障害児に対するスポーツ教室	8回	89人
H29 から	NPO法人能登川総合スポーツクラブ	福祉事業所との連携によるスポーツ教室	10回	87人
	NPO法人多賀やまびこクラブ	障害児放課後等デイサービスとの連携によるスポーツ教室	3回	24人
R1 から	アザックとよさと	福祉作業所との連携による出前教室	3回	22人
R3 から	湖南ちよいスポクラブ	障害児放課後等デイサービスとの連携によるスポーツ教室	5回	30人
			計 50回	492人

3. 事業内容

■ 障害者スポーツ理解促進事業（障害者スポーツ指導者協議会）

- 障害のあるなしに関わらず、障害者理解、障害者スポーツ普及促進のために公共施設で障害者スポーツを紹介するパネル展示を実施。併せて、障害者スポーツの拠点となる県立障害者福祉センターにおいて、体験会を実施。

<令和3年度実績>

実施日	場所	内容	人数
令和4年1月12日 ～1月31日	湖北まちづくりセンター	障害者スポーツに係るパネル展示	—
令和4年1月16日	県立障害者福祉センター	障害者スポーツ競技体験会 座学：知的障害選手とのコミュニケーション 体験：フライングディスク・ボッチャ	33人
令和4年2月12日	県立障害者福祉センター	障害者スポーツ競技体験会 座学：障がい者スポーツ介助における注意点 体験：車いすバスケットボール・ボッチャ・水泳・陸上	19人
令和4年3月12日	米原市役所コンベンションホール	障害者スポーツに係るパネル展示	—
		合計	43人



軽スポーツ体験



体育施設以外の場所の活用



独自に考えた競技の提供



パネル展示

3. 事業内容（県関連事業）

■ 障害者スポーツ地域促進モデル事業

- 障害者スポーツ教室開催のノウハウを有する総合型地域スポーツクラブ（親クラブ）が、実戦経験のないクラブ（子クラブ）にノウハウを共有する。
- 子クラブが、新規の実践クラブとなるよう支援。

■ 障害者スポーツマッチング支援事業

- 福祉分野等のスポーツに関するニーズ把握を行い、県大会や体験会、障害者スポーツ教室への誘導およびマッチングを支援

4. 事業実施の結果及び今後の展望等

■ 事業実施結果・影響

- 令和3年度は、県内総合型地域スポーツクラブ8クラブで教室開催を実施しているほか、県単独事業において、6クラブが障害者スポーツ教室開催のノウハウを蓄積・共有しており、次年度の新規参画を予定している。
- 障害者スポーツの実践のノウハウが蓄積するとともに、参加者との顔が見える関係が構築でき、参加する方の安心感や定期的な参加につながっている。
- 障害者スポーツの理解促進・普及においては、本年度開催された東京2020パラリンピックによる、興味・関心の高まりもあり、広く県内で周知を進めたい。

4. 今後の展望等

■ 事業実施において明らかになった課題

- 継続的な教室開催に向けた収入確保が必要。
- 総合型地域スポーツクラブのネットワークを使った参加者募集が主な周知方法であり、福祉分野との連携の強化や広く広報を実施するなど情報提供の強化が必要。

■ 今後の施策の方向性等

- 自立した事業実施に向けて、参加者（福祉サービス事業者）への参加費の徴収について情報収集を進める。
- 福祉分野など多様な団体との連携を強化していくとともに、市町行政との連携体制の整備を検討する。
- 障害者スポーツを実践する総合型クラブの増加に伴う、ボランティアや総合型クラブ以外の人材の確保・養成や関係機関の新規に参画できるようなネットワークの構築について検討を進める。